



— 読者からの質問② —

前回に引き続き読者からの質問と回答を紹介いたします。前回同様、文中の固有名詞の明記は控え、飼料の商品名等はアルファベット頭文字で表記することをご了承ください。

質問2 私は競馬場の厩務員で、担当馬にレースに向けて体重を絞りたい馬がいるのですが、なかなか体重が減らず飼い葉を工夫しようと思っているのでアドバイスを頂けたらと思います。今、与えている飼い葉はエンバク、配合飼料、高タンパクの補助飼料、大豆粕、チモシーのみとチモシーとルーサンの混ざった切り草、あとは塩などのサプリメント、他にチモシーとルーサンの投げ草も与えています。私の同僚は投げ草を止めるもしくは減らすのが良いと言っていたのですが、私としては草食動物で草を抜くのはどうなのかと思っています。今の飼い葉の内容でどれを抜くもしくは減らすのが良いのかアドバイスをお願いします。

回答2 競走に向けた体重調整方法のうち、もっとも一般的な方法は牧草給与量の減量です。これによって水分を含む大腸の内容物の減少を図ることにより、体重減効果を得るものです。しかし、ご指摘のとおり、草食動物である馬にとって牧草に含まれる繊維は、馬の健康に欠くことのできない栄養素であることから極端な減量は推奨できません。摂取された繊維は馬の大腸内で水分を保持する働きがあり、極端に牧草摂取量が低下すると馬体に必要な水分を保持することができなくなり、下痢を発症させひいては脱水によるパフォーマンス低下の原因となります。

これまでに報告されている科学的な知見では、競走前の3-4日間(追い切り調教後)における1日あたりの牧草摂取量を自由摂取状態から体重の1% (体重500kgの馬であれば5kg) 程度に制限することで体重を2% (体重500kgの馬であれば10kg) 程度減らすことが可能とされています。この牧草給与量1%という値も、馬の健康を最低限保ちつつ大腸の内容物(繊維+水分)を少なくすることによって体重低下を実現させる言わばギリギリの値と考えられます。このような牧草の制限給与時に、敷料である寝藁を食べる馬もいるので、口かごを装着する、あるいは敷料をウッドシェーピングに変更するなどの対策もあわせて必要となることがあります。現在給与されている飼料のうち、投げ草として与えられているチモシーとルーサンを等量ずつ減らすことで1日の牧草給与量が体重の1%程度とすることをまずはお試しください。なお、これによって食べるべき投げ草がゼロになってしまう時間帯が増加するのは胃潰瘍防止の観点からも避ける必要があり、少量ずつ頻繁に与えることが原則になります。競走終了後はまた通常の給与量にもどしてください。

さて、ここで心配なのは、現状での乾草給与量がすで

に体重の1%程度で推移している、という状況になっていないかどうか、です。もしそうであれば、普段から牧草給与量が少ない状態で管理されていることになり、こうした状況では上記手法の効果は発揮されません。是非牧草給与量を確認いただき、もし現状がそうであれば、穀類や配合飼料の給与過剰による過体重が背景にあり、それを見直す必要があります。通常の牧草(乾草)給与量は切り草も含め、体重の1.5%程度ですのでご参考ください。

質問3 現在14歳の日本スポーツホース(牝馬)をもつオーナーです。4か月前に初めて蹄葉炎と診断され治療中です。幸い初期(4段階の1)であるということですが、釘を打たないアルミ製の蹄鉄で装蹄していただいていたのですが、先週通常の装蹄に戻しました。飼い葉の内容は、干草8kg、フスマ、切り乾草少量(0.5kg位)、チャフヘイジ1kg弱を与えていますが、干草の内容は主にイタリアンライグラスで全く好みません。時々ルーサンが入るようです。この内容で問題ないでしょうか?蹄葉炎の原因としては、インスリン抵抗性によるものです。

回答3 インスリン抵抗性(IR)由来の蹄葉炎を発症した馬に対する飼料給与でもっとも注意すべき点は、デンプンやフラクタンなどのNSC(非構造性炭水化物)の摂取を極力避けることです。飼料中のNSC含量を正確に把握することは困難ですが、IR馬には飼料全体に含まれるNSCを12%以下とすることが推奨されています。NSCやIR由来蹄葉炎に関する紹介は、本誌のVol22、23(2018年5、6月号)をご参照ください。

さて、現在給与されている飼料には、NSC含有率が高いトウモロコシ(NSC含有率73%)や大麦(61%)、エンバク(54%)などの穀類は含まれていませんが、現行給与飼料のなかではフスマ(30%)が比較的高く、給与量にもよりますがこの馬にフスマを給与する意義は高くはないと考えられます。フスマに代えてビートパルプ(12%)あるいはアルファルファヘイキューブ(10%)の給与を検討されてはいかがでしょうか。なお、ビートパルプは給与前に水漬して水分を含ませてから給与する、ヘイキューブも同様に水漬して柔らかくしてから与えることが重要です。いずれもひと手間がかかりますので、フスマの代用は現行で時々給与されているルーサン(アルファルファ:11%)乾草少量を常時給与されてもよいと思われるかもしれません。また、万全を期すためにイタリアンライグラス乾草(13%)を給与前に水漬してフラクタンなど水溶性のNSCを洗い流してから与えることも推奨されます。イタリアンライグラス乾草の嗜好性が不良とのこと、イタリアンライグラス2-3kgをルーサン乾草1kg+チャフヘイジ1kgに置き換えても問題はありませぬ。